

姫路市商工会管内地域経済動向調査報告

(2023年6月値・要約版)

本調査は、姫路市商工会管内が、兵庫県及び全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しており、姫路市商工会HPで公開している。

経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的に広く管内事業者等に周知するとともに、経営指導員等が巡回指導を行う際の参考資料とする。

※本調査報告内に表記される「姫路市」とは原則「姫路市商工会管内(夢前町、安富町、香寺町、家島町)」を指す

(出展:小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、姫路市商工会景況調査、他)

<用語説明> DI値 = 「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す

例. 調査事業所数 10、「好転」事業所数 2、「変化なし」事業者数 4、「悪化」事業所数 4 の場合

好転: $+25\% \times 2 = +50\%$ 、悪化: $-25\% \times 4 = -100\%$ 差引: -50% が DI 値となる

産業全体の景気動向の推移

<概要>

2023年4-6月期の調査結果は、全産業のDIがいずれも前期より改善した。中でも売上額と採算の改善幅は2桁ポイントの大きな動きを示し、その結果、売上額DIは水準自体がわずかにプラスへと上昇している。新型コロナウイルス感染症における第8波の収束と、その後の5類感染症移行などを背景として、サービス業全体が順調に改善してきていることが大きい。

経営上の問題点としては、引き続きコスト面をあげる経営者が多数を占める。加えて、従業員の確保難を指摘する割合は全ての分野で増加しているのが特徴的で、供給面での問題に苦慮する中小企業の現状もうかがえる。

今回の調査結果は、中小企業の景況がどの分野においても改善傾向にあることが示されたものの、最新の日銀短観(2023年6月)の調査結果によると、中小企業の業況判断DIは「先行き」に関して、製造業では改善したが、非製造業では悪化が見込まれている。依然として続く物価上昇によるコスト増、人手不足による従業員の確保難や人件費の増加なども懸念されており、今後の動向には引き続き注意が必要である。

<地域別>

【全国】

2023年4-6月期の全産業の業況判断DIは、▲13.2(前月差1.2pt増)となり、前月から改善した。

製造業の業況判断DIは、▲15.5(前月差0.6pt減)となり、前月から悪化した。

建設業の業況判断DIは、▲18.0(前月差4.8pt増)となり、前月から改善した。

商業の業況判断DIは、▲20.6(前月差1.9pt増)となり、前月から改善した。

サービス業の業況判断DIは、1.1(前月差1.6pt減)となり、前月から悪化した。

全産業DIは改善したが、業種によっては悪化している。原材料や原油等のコスト高・人手不足等の影響が少なくないと言えるため、懸念事項は少なくない。

【兵庫県】

企業の業況判断は、足もと改善し、先行きも横ばい圏内を見込んでいる。

個人消費は、回復に向けた動きが広がっている。

輸出は、増勢が鈍化している。設備投資は増加計画にある。

生産は、一進一退の動きとなっている。

有効求人倍率は、前月を下回った。雇用者所得は、全体として改善の動きがみられる。
倒産件数は、前年を上回った。

【姫路市商工会管内】

姫路市の業況は、▲15.7となり、全国DI(▲13.2)、兵庫県DI(▲10.8)と比較すると、最も低い。
売上高は、▲15.7であり、全国DI(10.8)、兵庫県DI(2.3)と比較すると最も低く、その差は大きい。
採算状況は、▲35.3で、全国DI(▲29.9)・兵庫県DI(▲22.0)と比較すると、最も低い。
資金繰りは、▲13.7で全国DI(▲23.2)と比較すると良いが、兵庫県DI(▲8.3)よりは低い。

姫路市商工会独自調査における代表的なコメントを以下に記す。

(商業 小売、卸売等)

- ・新型コロナウイルス感染症が5類になったこともあり、各種イベントに関連する売上が増加した。
- ・水道光熱費も値上がりするが、売価に転嫁できておらず利益を圧迫している。
- ・大量仕入により、単価を下げられるが、キャッシュフローに不安があるため出来ないでいる。
- ・消費者が商品の値上がりにより、価格競争力のある大型店での購入によりシフトしていつている。
- ・来店客数は減っている一方、配達が増えており、売上に対しての負担が増えている。

(建設業)

- ・インボイス制度の開始に伴い既存の取引先の減少が予測される。

(製造業)

- ・機械設備の老朽化に伴い、短期対応が困難となるが、機械設備も値上げが続いており導入を検討せざるを得ない。

<業種別業況>

全国的な産業全体の業況は、売上DIがわずかに悪化、採算・業況DIは、わずかに改善し、資金繰りDIが小幅に悪化した。

経済活動の正常化を背景に、5期連続で売上DIがプラスで推移し、価格転嫁に向けた取り組みが進み、採算性も改善してきている。

一方、コロナ融資の返済開始が資金繰りの悪化に影響を及ぼしている。また、人手不足から需要拡大に対し、供給が追い付いていない状況にある。

<総括コメント>

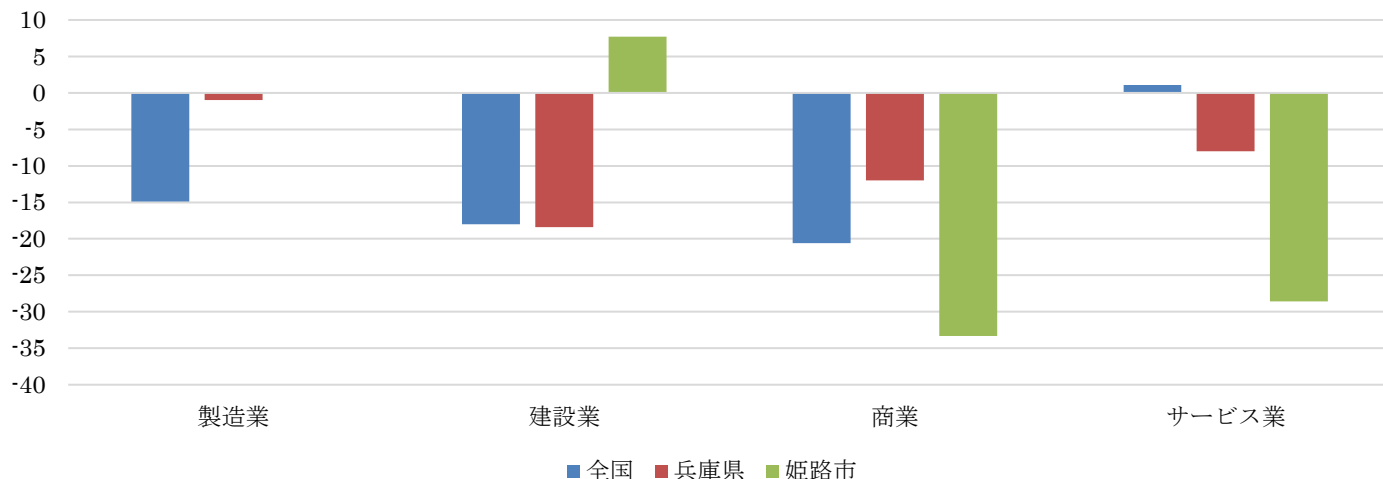
国内景気は、緩やかに回復している。

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引き締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

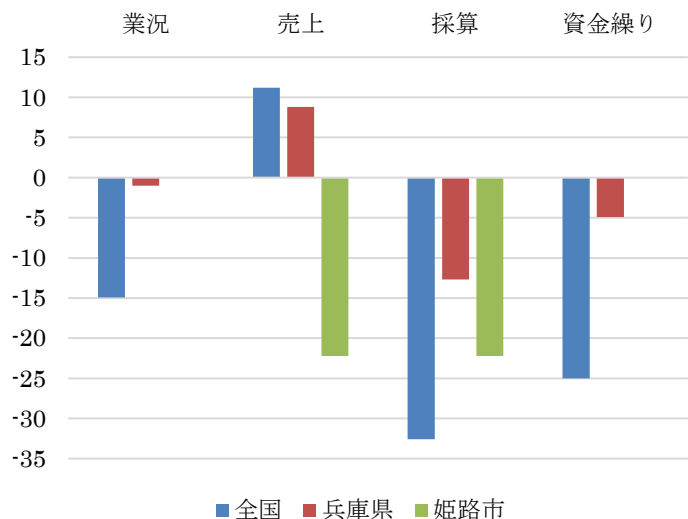
姫路市においては、新型コロナウイルス感染症の5類移行以降、人流回復の影響を受け、客足が戻りつつあるものの、その影響は小さく全国や兵庫県と比較しても売上の伸びは小さい。その反面、物価高・人手不足対応への影響によるコスト高から生じる利益面への不安の声は多い。その対策として、DX推進などの生産性向上を図る等して、事業継続への取り組みを引き続き積極的に行う必要がある。

業種別 DI 比較グラフ

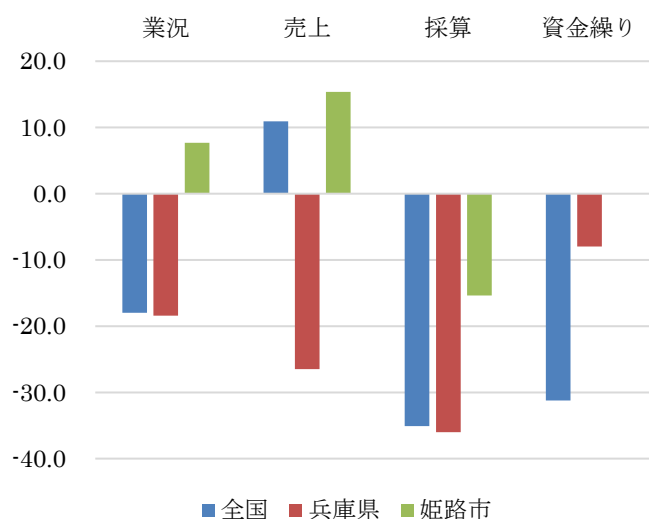
業種別 業況DI値比較



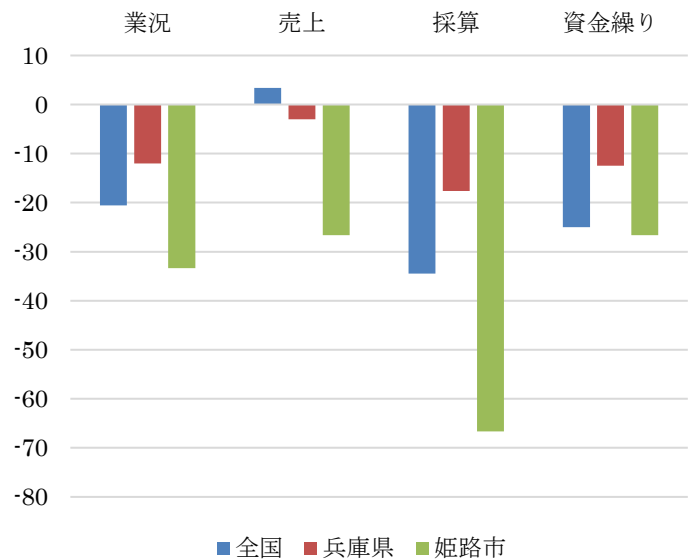
製造業DI値



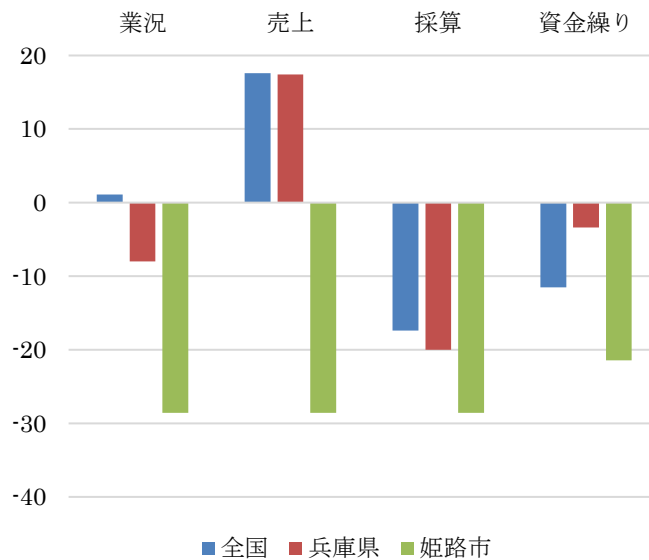
建設業DI値



商業DI値

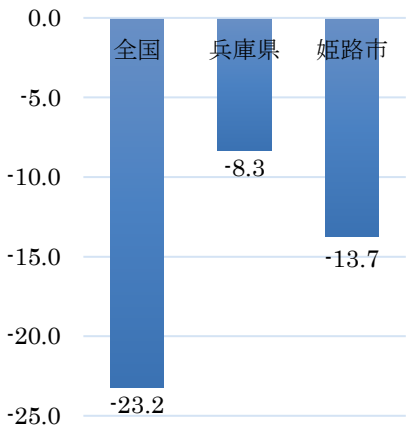


サービス業DI値

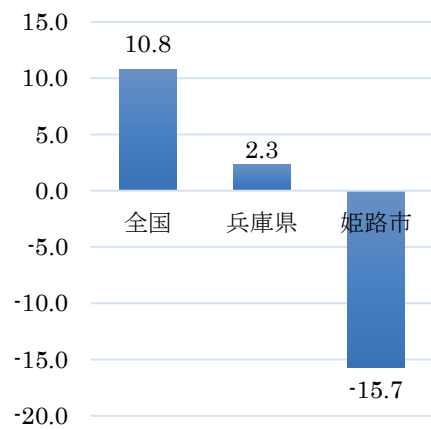


全業種 DI 比較

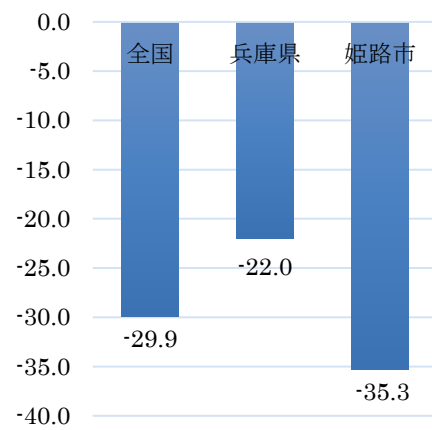
資金繰り DI 値



売上 DI 値



採算 DI 値

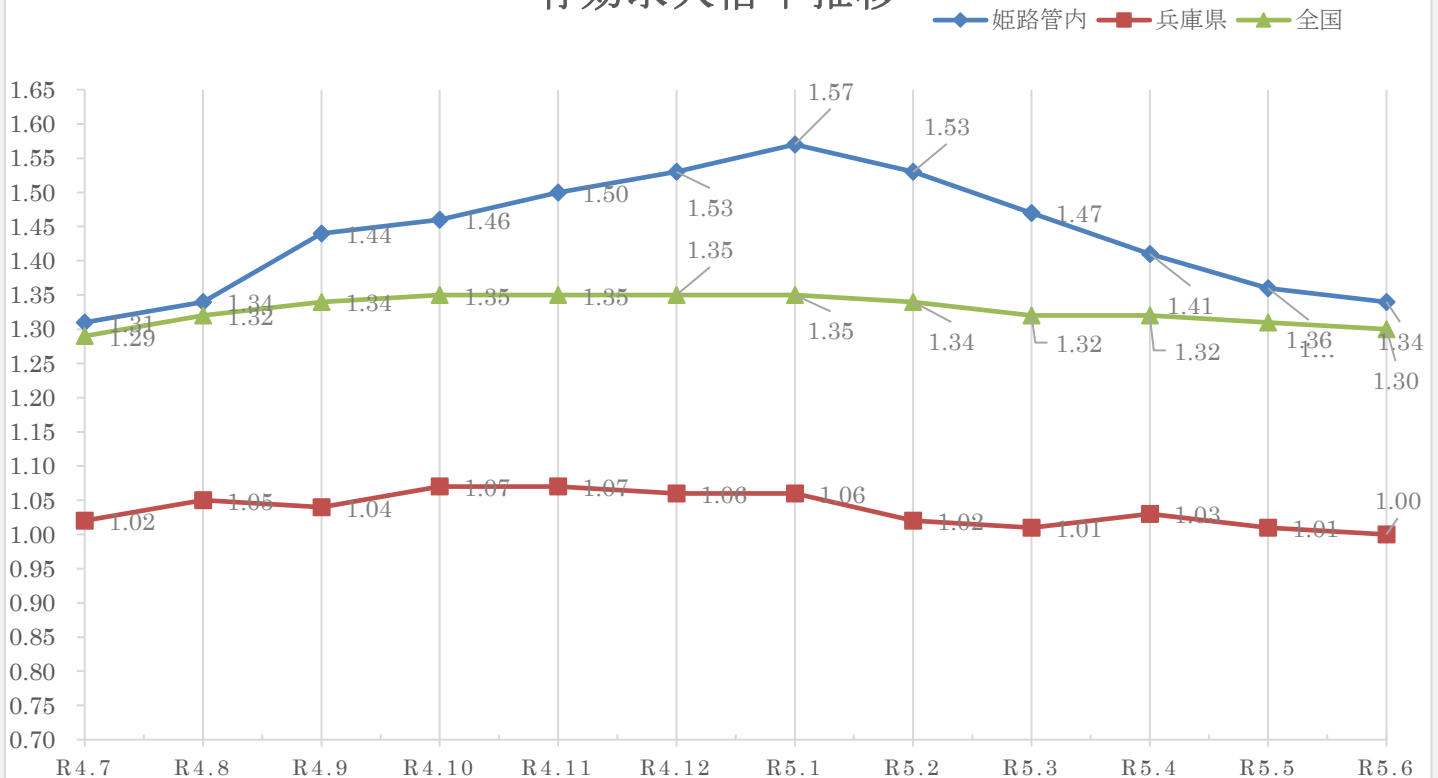


管内の雇用情勢

〈用語説明〉有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数 例. 求人案件が 20 件 求人応募者 10 人 なら 2.0 倍
 令和5年6月期の有効求人倍率は、全国 1.34 倍、兵庫県 1.00 倍、姫路管内 1.30 倍となっている。
 令和4年7月から1年間の推移を見ると、全国と兵庫県においてはほぼ横ばい傾向である。
 姫路市は令和5年1月までは増加傾向であったが、そこをピークに減少傾向にある。
 原燃料高が続く中、人件費も上昇基調とあって人手不足の中でも新規採用に慎重になる製造業の動きが広がったとみられる。

兵庫労働局は足元の雇用情勢についての判断を据え置き「持ち直しの動きにやや弱さが見られる」との見方を5カ月連続で示した。

有効求人倍率推移



▲全国・兵庫県・姫路市(ハローワーク姫路管内)直近1年間の有効求人倍率推移比較